

## 精神神経科学

### A 欧文

#### A-a

- 1 Kinoshita M, Numata S, Tajima A, Shimodera S, Ono S, Imamura A, Iga J, Watanabe S, Kikuchi K, Kubo H, Nakataki M, Sumitani S, Imoto I, Okazaki Y, Ohmori T. DNA methylation signatures of peripheral leukocytes in schizophrenia. *Neuromolecular Med. Mar*; 15(1): 95-101.2014 (IF 3.885)\*
- 2 Uhal BD, Nguyen H, Dang M, Gopallawa I, Jiang J, Dang V, Ono S, Morimoto K. Abrogation of ER stress-induced apoptosis of alveolar epithelial cells by angiotensin 1-7. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol.* 2013 Jul 1;305(1):L33-41. .2014. (IF 4.04) \*
- 3 Nakano T, Ono S, Yamaguchi J, Sugimoto R, Yamaguchi N, Morimoto Y, Kubo T, Ozawa H, Kurotaki N. Modified electroconvulsive therapy for the treatment of refractory schizophrenia-like psychosis associated with Huntington's disease. *J Neurol. Jan*; 260(1): 312-4. 2014 (IF 3.841)\*

#### A-b

- 1 Ono S, Domschke K, Deckert J. Genomic structural variation in affective, anxiety, and stress-related disorders. *J Neural Transm. Jan*; 122(1): 69-78. 2014 (IF 2.871)\*
- 2 S.Nonaka, S. Kanegae, H.Kinoshita, et al: The incidence rate of first-episode psychosis in a defined catchment area of Nagasaki in Japan. *Early Intervention in Psychiatry*V8 Supplement 1. p138. 2014 (IF 1.81)\*

#### A-c

- 1 H. Kinoshita,S.Nonaka,H.Ozawa et.al.: Psychiatric problems of victims from the volcanic disaster of Mt.Unzen Fugendake in Japan.-from the investigation 15 years after the disaster-. WPA Section on Epidemiology and Public Health -2014 Meeting .Program and Abstracts.P144.2014

### B 邦文

#### B-a

- 1 木下裕久：PTSDをめぐる最近の動向—中・長期ケアの視点から—，「精神科」24巻6号 Page688—690.2014
- 2 久保達哉，森本芳郎，田中大三，大橋愛子，杉本 流，黒滝直弘，小澤寛樹：ベンゾジアゼピン系薬およびmECTでの治療にて改善した緊張病（カタトニア）症候群の2症例，精神科 24(4): 468-492, 2014
- 3 石井浩二，北條美能留，川畑哲史，池田津奈子，松尾久美，中島由紀子，宗像千恵，龍 恵美，木下裕久，原 哲也：直腸がんの仙骨部局所再発症例に対するメサドンの使用経験，日本緩和医療学会学術大会プログラム・抄録集 19回 p271. 2014
- 4 福田和久，船本優子，生塩詞子，井川 掌，井上統夫，金子賢一，田中克己，岩永竜一郎，木下裕久，黒滝直弘，今村 明，中根秀之，小澤寛樹：長崎大学病院性同一性障害外来における受診者の特徴，GID学会誌 in-press

#### B-b

- 1 黒滝直弘，ソトス症候群，神経症候群IV 別冊，697-702, 2014.

#### B-c

- 1 小澤寛樹：メンタルヘルス診療の新たな展開（I）グローバル・メンタルヘルス(ドクターサロン 58 巻 10 月号，キョーリンメディカルサプライ株式会社，東京，pp.47-50 所収) 2014

#### B-e

- 1 小澤寛樹：グローカリゼーションにおける内観療法の意義．第17回日本内観医学会p35, 2014
- 2 小澤寛樹：上海シンδροーム—グローバルの視点から— 心と文化13巻（2）, p80-84, 2014

- 3 小澤寛樹：長崎県に於ける基幹型認知症疾患医療センターの意義～いま私たちが取り組んでいること。みんなの精神保健福祉32号 p1, 2014
- 4 山口尚宏, 森本芳郎, 小野慎治, 松本一隆, 松本俊二, 中根秀之, 今村 明, 黒滝直弘, 吉本静志, 中根允文, 岡崎祐士, 小澤寛樹: O15-2. マウスにおける低濃度リチウム長期投与による衝動性の変化の検討, 第36回日本生物学的精神医学会, 2014.
- 5 吉田真太郎, 山口尚宏, 橋口知幸, 楠本優子, 岩倉由佳, 黒滝直弘, 小澤寛樹: 長崎大学病院精神神経科におけるラモトリギンの使用状況～抗うつ薬の減量効果をふまえて～, 第24回日本臨床精神神経薬理学会, 第44回日本神経精神薬理学会合同年会プログラム・抄録集, p159, 2014.
- 6 小林典子, 田山達之, 鬼塚芙美, 久保達哉, 黒滝直弘, 小澤寛樹: 留学生のメンタルヘルスにおける問題点～双極性感情障害を発症し入院に至った一例から～, 第67回九州精神神経学会, 第60回九州精神医療学会, プログラム・抄録集, p70, 2014.
- 7 福田和久, 船本優子, 生塩詞子, 井川 掌, 井上統夫, 金子賢一, 田中克己, 岩永竜一郎, 木下裕久, 黒滝直弘, 今村 明, 中根秀之, 小澤寛樹: 長崎大学病院性同一性障害外来の現況, GID (性同一性障害) 学会第16回研究大会シンポジウムp48, 2014
- 8 福田和久, 井手みのり, 池井ありさ, 岩倉由佳, 楠本優子, 船本優子, 増田瑤子, 木下裕久, 黒滝直弘, 今村 明, 小澤寛樹: 高齢者の自殺企図に関する臨床的特徴の検討ー65歳以上の受診搬送者に着目してー, 第11回日本うつ病学会総会p202, 2014.
- 9 福田和久, 井手みのり, 池井ありさ, 岩倉由佳, 楠本優子, 船本優子, 増田瑤子, 木下裕久, 黒滝直弘, 今村 明, 小澤寛樹: 二次救急医療機関を対象とした自殺未遂者支援の取り組み, 第38回日本自殺予防学会総会p103, 2014
- 10 福田和久, 井手みのり, 池井ありさ, 岩倉由佳, 楠本優子, 船本優子, 増田瑤子, 木下裕久, 黒滝直弘, 今村 明, 小澤寛樹: 二次救急医療機関を対象とした自殺未遂者支援の取り組みー未遂者支援と連携状況に関する調査を通してー, 第54回日本心身医学会九州地方会p61, 2014.
- 11 増田瑤子, 船本優子, 池井ありさ, 楠本優子, 岩倉由香, 福田和久, 久保達哉, 木下裕久, 黒滝直弘, 小澤寛樹: 認知症疾患センターの活動報告と展望ーアンケート結果より考察. 第3回 日本認知症予防学会学術集会 p113, 2014
- 12 宮崎弘美, 小澤寛樹: 発達障害を持つ生徒への「外来内観ワーク」導入の試み. 第37回日本内観学会 p60, 2014
- 13 冠地信和, 吉田真太郎, 吉村俊祐, 松坂雄亮, 久保達哉, 小澤寛樹: 非ヘルペス脳炎に合併し、半側空間無視を伴った Cotard 症候群の1症例, 第67回九州精神神経学会, 第60回九州精神医療学会, プログラム・抄録集, p76, 2014.
- 14 加納碧, 山口尚宏, 吉田真太郎, 久保達哉, 小澤寛樹: 産褥期精神病に対して mECT (modified electroconvulsive therapy) が有効であった一例, 第67回九州精神神経学会, 第60回九州精神医療学会, プログラム・抄録集, p62, 2014.

**研究業績集計表**

**教室等名 : 305 精神神経科学**

**論文数一覧**

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2014	3	2	0	0	1	6	5	4	1	1	0	14	20	26

**学会発表数一覧**

	A-a	A-b		合計		B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会				シンポジウム	学会		
2014	0	0	2	2		1	0	15	16	18

**論文総数に係る教員生産係数一覧**

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)		SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2014	0.231	0.857		0.833	0.714

**Impact factor 値一覧**

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2014	16.447	2.35	3.289